

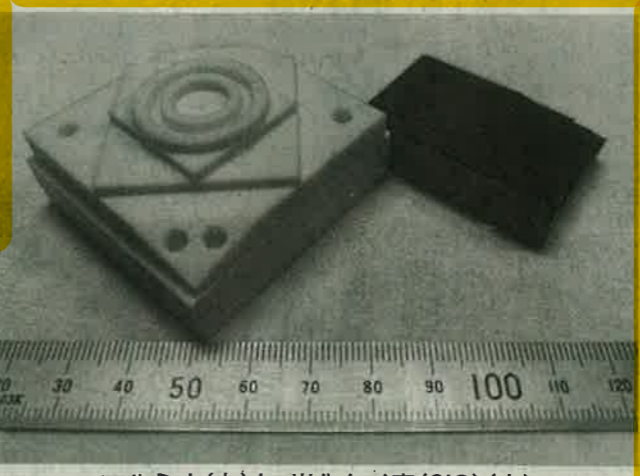
創出する 三重県産業界

新たなフィールドを開拓

ノウハウ生かした新製品開発、新事業展開

過度の田安や長引く燃料・光熱費・物価の高騰など、日本の企業を取り巻く状況は相変わらず厳しい。そうした中でも三重県の企業は自ら動き、新たなフィールドを開拓する。次の成長への足がかりとして、培ってきたノウハウや経験を生かした新製品開発や新事業展開を積極的に進めている。また、県内の金融機関や産業支援機関は、セミナーやシンポジウム、相談会などを定期的に開催。企業が必要としている情報や知識を得る機会を提供するなど、各機関の特色を生かした活動で成長を支える。

自動車エンジン部品 モジュールにより、通が主力の光精工(三重 電)と内側の冷却ユニット(桑名市)は、電気ユニットの温度が低下。自動車(EV)市場の拡大、その冷気をファンにより大で従来の業務が縮小、リボックス内に循環させることへの対策として、外側の排熱ユニットを自社製品を開発。異トから排熱する。外気なる金属を接合して電温が約34度C、ボック流を流すと接合部分でス内部温度が約63度C熱の吸収・放出が起る現象のペルチェ効果を活用した制御ボック度Cまで低下。そのスクーラー「ヒカリラ後、約47度Cで安定し「クール」を発売した。また、磁力で固定さ制御盤を使用する設備・装置メーカーの需を積極的に開拓し、2023年度に1億円の売り上げを目指す。同グループは制御ボックス壁を挟み込む形で内側に冷却ユニットを、外側に排熱ユニットを取り付けて使う。両ユニットは搭載されたマグネットの磁力で互いに引き合い、壁に固定される。寸法は縦143・2ミリ×横153・2ミリ。奥行きは冷却側が66・5ミリ、排熱側が71・7ミリ。搭載されたペルチェ



アルミナ(左)と、炭化ケイ素(SiC)(右)

自動車や産業機械、錠

技術活用し顧客広げる

高洋電機(同玉城町)は、試作加工の顧客開拓に力を入れる。主力は切削加工による自動車や産業機械、錠

従来の大がかりな取替え工事が必要になり、時間がかかるコストと位置の微調整や設置場所の変更、メンテナンスや撤去も容易。特に冷却能力を上げる場合、



排熱ユニット(左)と、冷却ユニット(右)

第4工場は同社の駐車場だった場所に建設した。敷地面積は約1800平方メートル。鉄骨造り一部2階建てで、延べ床面積は約770平方メートル。併せて試作加工用の設備としてDMG森精機製の5軸加工機と超音波加工機を導入した。機械などを含めた総投資額は約2億円。

同工場の稼働から約1年の間に半導体製造装置部品の試作加工を受注した。素材は石英ガラスやセラミックス



シックな内装、ガラス張りのパーティションで区切られた東京オフィス

新たに導入した「C V G-9」は、主軸の脈構築などを行う拠点振り直径950ミリとして、東京オフィス最大積載重量が2500キログラムで中・大型丸の内側正面にある加工対象物(ワー「新丸の内ビルディング」)に対応する。タレグの11階で、都内にット構造による2スピン拠点を構えるのは初めンドル仕様で、内径と外径、端面を高精度に加工できる。

同社は15年ほど前から立型研削盤を使い始金・溶接加工による建設機械、自動車、医療・介護用ベッドなどの部品製造を主力としており、得意とするの部品製造を主力として、複数の工程の一貫受注モノづくりにこだわら注において加工実績を重ね、研削ノウハウを蓄積してきた。今回の追加導入で研削工程の生産能力を上げるとともに、値段や納期、精度、品質において、他企業の研削に特化した企業との差別化を図る。また、発注元の部品メーカーの同工程における課題に対応する。

新ビジネス模索する 東京オフィス開設

DAISOホールディングス(津市)は、新たなビジネスを始め

導入した太陽工機製の立型複合研削盤